

佑 啓

社会福祉法人 佑 啓 会 ふる里学舎
〒290-0265 市原市今富 1110-1
tel 0436-36-7611
<http://www3.ocn.ne.jp/~fgakusya/>
mail fgakusya@peach.ocn.ne.jp
発行者 里 見 吉 英
編集者 三 股 金 利

ダイアリー

三股 金利

8月29日 朝早く起き
息子がたのしみにしていて
一泊旅行の準備。昨日仕事が入り一日ずれ込んだ為、夜、宿泊情報誌を買い込み行き先を絞っていたのでこれから予約をしなければなら

い。しかしである。息子は夏休みの宿題が終わっていないという。「一生懸命遊んだのでできませんでした」と言え、せっかく休んだんだという私。約束だから宿題を終わらせてからと要は言う。とうとう涙目になった彼は「宿題をやってからでるよ」これから大変であった。工夫工作なるものアイデアがでなければ先へ進めない。デッチとモーターを持ち出し「お父さん手伝って」しようがない。あれを作ろう、これを作ろう。私が夢中になってなんにな

る。考えは浮かんでも失敗のくり返し、作っては壊し、作っては壊し半日が過ぎた。もつと簡単なものにしよう。図書館で工作の本を開き、材料を買って帰る。しかし、またダメ。「お父さん今日い

なくていいヨ。明日朝早く

8月30日 5時起床。天気
があまり良くない。息子は水のきれいな川に行きたいというが、栃木・群馬は天気が悪いし山の雷は怖い。山梨に行こう。私の勇断で方向は決まったが、さて目的地は。娘はバイトだから親子3人こ

まかしは行く。結局昇仙峡に決めた。関東近県は利用者とある。川で遊び影絵美術館で山下清展を観る。小さい頃木更津の十字屋(誰ももう知らないデパート)で生前の画伯に握手してもらい絵を買った思い出がある。そろそろ

でればいいから」次第に小学4年の息子の楽しみはほんでいく。とうとう私は投げだし昼寝と相成り、次は妻の出番となった。きつと学校の先生は親子で苦悶する思い出のために夏休みの宿題を出すのだろう。

昼寝から覚め、落雷で壊れほったらかしにしてあったテレビを修理に出す。これで旅行一日目となるはずの日はあえなく終わった。

帰ろうかと思っていると「別の川で遊ぶ」と息子。観光マップをもらい私は温泉マッ

クを探す。あったあった黒平温泉。ひなびたいところだろう、溪谷も方向は一緒。そこで遊んで温泉に浸かる。いい案だ。荒川ダムを越え板敷溪谷へ。ここはきれいだ。私も浮かれて先へ先へと進む。目の前の倒木が滝のしぶきで湿っている。危ないなと思

いながら勝手に足が出た。スッテンコロリンである。「大丈夫」と言いながら妻は、帰路自分が運転することにな

らないか心配である。息子は出血した私の手を見て驚きの表情、笑ってこらえたが、肉体の痛みを久しぶりで味

わった。手をタオルで縛り次の温泉へと向かう。これに入らなければなにが楽しみか。林道を行けども行けども目的地は出てこず次第に黒い雲に覆われ雨足が強くなる。落石が所々、行き交う車もな

い。黒平集落に着けども温泉らしいところもない。悪天候に早く山を下りようと決めた。ガイドマップのいい加減なこと。距離は絵からは測れないことを思い知らされた。ハンドルを握る痛みに心臓の鼓動を感じながら次の町

営温泉を目指したが休み。仕方なく町中の温泉施設での

入浴になってしまった。右手が使えない私の頭を息子が洗ってくれた。私には父親をさわった記憶もないし、残像もない。シャンプーがちよつと目にしみた。夕方6時を過ぎ山梨を後にした。彼の夏休みは、学舎で企画した家族向けの養だて遊びと今日で終わった。

8月31日 ふる里学舎和田浦の地鎮祭は11時からだ。施設を7時30分に出発。あいにくの雨。理事長・理事さんを乗せ和田に向かう。さらに強くなる雨に途中長靴を買いたむ。雨降って地固まる。というが現地は固まった岩が雨になるとどろどろになる。神が与えた試練か。予想とは裏腹に近くなると空は明るくなり雨も小降りだ。千倉湾を臨む予定地につくと、雨はすっかり止んでいた。滞り無く神事も終わり、工事が3月までに無事終了することを祈る。直会の席で里見家の墓所が和田にあるとの話が出る。これも何かの縁と行ってみたい気がするが施設長も昔行ったきり場所も不明という。地元の人

もあるのかあそこに確かあるはずと教えてくれるが訪ねるのはまたの機会とした。施設に戻ったところに町の

課長さんから電話が入る。「町史を調べましたのでコピーを送ります」和田の人は親切だ。

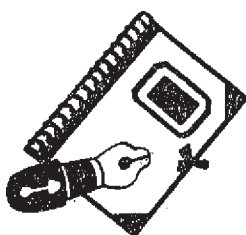
9月1日 職員結婚式。

昨日降りて戴いた神様は昨日のうちに天に帰り、今日はイエスキリストに新夫婦の幸福を祈る。ノリトもサンピカも気分を落ち着かせ俗世に汚れた我が身をきれいにしてくれる。披露宴に先立ち、場当たりのという施設長の祝辞に近親の人達は納得顔。

「乾杯」ビールを傾けながら、「ところで「佑啓」のすみ具合はどうだ」係長に尋ねる私に横から「今おまえが書くことに決まった」施設長が書くはずではなかったか。やり残した夏休みの宿題が増えたようなことになっ

たが工作と一緒に書きようにもネタがない。日記を書く習慣のない私だがこの数日を思い出し発行を急ぐことにした。

(指導課長)



A simple line drawing of a cat standing on its hind legs, facing right. It has a large, bushy tail and a small leaf perched on its head. The cat's eyes are closed in a content expression.

く来ないかなーといったところでしょう。自宅に帰るとお菓子を食べます。コーラを飲みます。お昼ごはんまでにお菓子三袋を開けて、コーラを二缶飲みます。お昼ご飯の後もお菓子、ジュースと続きます。ファミコンで遊んだり、大好きな水遊び(何度も洗面所に行き、その都度タオルを水に濡らしてバケツに入れる、十枚以上)をしたりして機嫌のよいものです。機嫌がいいのを見ると、親のほうもうれしくなります。

かけの調子ぐらいいかありませんので、本人の思うようにならないことは多いはずです。わがままを許してくれる親のいる自宅が発散の場になるのも仕方ありません。

会社から戻ってきてても、子供の顔を見れないのは寂しいものです。もう高3ですが、顔、雰囲気、行動のどれをとってもまだ子供のように思えます。といつても、中三頃からは親の干渉をいやがるようになってきていました。声かけをする「オシッコ、会社」と言います。「干渉するな、あっちへ行け」というわけです。母親や姉はその辺りをよく理解しているようです。私にはまだ関わりへのこだわりがありますが、週に五日は学舎、二日は自宅という今の生活のように、気持ちの上でももう少し離れた関係にしないといけないと思っています。

知能の発達が遅れている、小学校までにしゃべれなければ一生ダメかもしれないと言われたのは二歳の時でした。直ぐにマザーズホームに通いだしました。声かけに注意を向ける、人の眼を見るようになる、単語を少し言うようになるまででしたが、遅れを取り戻すことはなかなか言葉がでないまま学齢期になってしまいました。それからもう少しずつは伸びているのですが、やはり目立ったものではないかもしれません。目はスリムな体型に変化でしょう。今はスリムな体型をしています。小学部五年から中学

安定した気持ちに変わっていった欲しいと思います。自宅でも学舎と同様に落ち着いて過ごせるように早くなって欲しいと思います。そうなれば家族での外出にも不都合はなくなり、楽しみが増えます。今後も親元ではなく学舎での生活になりますが、自由で制約の少ない生活をさせたいと思っています。かわない子です。楽しく過ごしてくれるのが一番の希望です。



最近家の子が飛行機に興味を持ち、夜な夜な、飛行機の本を引っ張り出し「乗りたい、乗りたい」と騒ぎ立てることが多い。その影響を受けてか、私も飛行機にとっても興味を持ち乗りたくなつてしまった。

スウェーデンまで約十四時間の飛行、なんとうれしきことだろうと胸弾ませたのが今にしてみると懐かしい。

空港にて飛行機を待つ間、本を買い置き、展望場で飛行機を眺めながらコーヒー片手にと自分の行動に一喜一憂し長時間の飛行に備えた。抑えきれない胸の高鳴りを周りに悟られぬように。憧れの飛行機に乗り海外に向け旅立った。

スウェーデンの白夜・街並みが窓から見

この研修では各国の制度に触れることはもちろん、自分の勤めている施設と何が違うのか見比べたいと考えて臨んだ。

スウェーデンではグループホーム視察であり、法律によって守られた生活空間（一人二部屋以上・シャワー、トイレ各部屋設置）の広さ、構造には圧倒され、ハード面

については福祉先進国を垣間見ることが出来た。しかし、ソフト面をみると利用者の介護支援者は同性以外でもかまわないかと話しており、そのことがお国柄なのか、それとも福祉先進国と言われる国の行き着いた先の答えなのかは知り得なかったが、とても考えさせられた。一もし日本人がそのま

援者を好ましく思わなかつたらこちらに訴えてくる。たとえそれが隱害の重い方であつても言葉にならなくとも態度に。」と付け加えていた。

スウェーデンは障害者が地域の中で生活していることがごくあたりまえで、日本の

ように「障害者が地城の中で安心して暮らせるように」とのような段階は遠い昔のよう
に感じる。歴史・文化・風俗の違いを拭い去
ることは出来ないが、障害者を意識するこ
とのない自然なコミュニケーションが目につ
く印象的であった。

スウェーデンでの予定をこなし今度は一
路ドイツに向かった。ビールにソーセージの
国。ホテルについたのが二十二時頃で皆
眠そうにしている。そんな中ビールでも飲
みませんか。なんてやつだ。素敵なこと

日が刻一刻と近づいてくることを感じる。なんと早いものなのか。最後の訪問地イギリスはもう窓の外。その夜無性にインバーガ―が食へたくなった。外に出てケンタッキーへむかい英語で注文する。これだけ長い間外国にいとと流暢に話することが出来るんだと錯覚してしまう。

イギリスでの視察はあの有名なトインビーホールである。これまで視察してきた施

設とは異なり、障害者のみならず、様々な人が利用していた。また、これだけ世界的に有名な施設が税金をほとんど使わずに運営している（個人の寄付、法人の寄付等）と話していた。国によって運営方法が異なっているが、税金または寄付、どちらがよい運営方法なのかはわからないが、

その違いが裾祉に対する考え方の違いまたは障害者に対する理解の差からきているとすれば國の違いとばかりはいえないものを感じた。

えは海外に十日間いていたのも夢の中では……

しかし、そう思い込みただけなのではないのか、この文庫を書いている時間は、午前三時紛れもない現実だ。

(指導員)

★

編集後記

★

先日は台風対策にてんてこ舞。結果的には、大山鳴動して嵐一匹、と思うのは不韙ですね。備えあれば憂いなし。(H)

(附錄)